

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 国立大学法人秋田大学教職大学院 共催:教育文化学部附属教職高度化センター 後援:秋田県教育委員会, 秋田市教育委員会
コラボ研修プログラム	テーマ: 全ての子供たちに開かれた「GIGAスクール」の実現 - ICTを「学び」の道具に -
支援事業報告書	研修等名:【NITS・秋田大学教職大学院コラボ研修】 第12回あきたの教師力高度化フォーラム 本フォーラムは新型コロナウイルス対応のため全面オンラインで実施 開催日時: 令和3年10月9日(土) 13時~16時15分 開催場所: 秋田大学(秋田県秋田市手形学園町1-1) 参加人数(総数)と参加者の属性: (135人)県内39人、県外47人、学内49人

内容: 塩見みづ枝氏講演の一部及び司会進行林良雄の総括より

Society 5.0 の社会像・求められる人材像、学びの在り方

Society 5.0 の社会像としては、定型的業務や数値的に表現可能な業務は、AI技術により代替が可能になって、産業の変化、働き方の変化が予想される。日本の課題としては、AIに関する研究開発に人材が不足、少子高齢化、つながりの希薄化、自然体験の機会の減少が挙げられる。

自治体における GIGA スクール構想に関連する課題について

学校の1人1台端末活用等に関して、GIGAスクール構想に関連する課題について、GIGA StuDX 推進チームにおいて、全国の都道府県及び市町村を対象に、現時点での課題についてアンケートを実施したところ、概ね次のような状況にあることが明らかになった。

- ・義務教育段階においては、1番目と2番目の課題として、「学校の学習指導での活用(701/1761団体、39.8%)」「教員のICT活用指導力(631/1761団体、35.8%)」「持ち帰り関連(568/1761団体、32.3%)」が挙げられている。更に、その他の課題も含めると「端末の管理・運用(829/1761団体、47.1%)」「家庭の通信環境(831/1761団体、47.2%)」が多い。
- ・高等学校段階においては、1番目と2番目の課題として、「端末整備(36/47団体、76.6%)」「学校の学習指導以外での活用(16/47団体、34.0%)」が挙げられている。更に、その他の課題も含めると、「端末の管理・運用(22/47団体、46.8%)」「教員のICT活用指導力(33/47団体、70.2%)」「学校での学習指導での活用(22/47団体、46.8%)」が多くなっている。

総括: ICT といえば若い教員というイメージがあるが、一番価値を感じているのはベテラン教員である。いかにベテラン教員を巻き込むかが、これから秋田県教員にICT利用が広がるポイントとなる。そのためには、ベテラン教員、若い教員、そしてICT支援員がタッグを組むことが必用になる。

成果: 事後アンケートに69人が回答、「とても満足」36人、「どちらかというと満足」32人。以下自由記述より。

- ・秋田県の現状(市町村教育委員会レベルで)、学校レベルの取組状況、成果・課題について把握できた。
- ・ICTが取り入れられた背景や、学校教育が求められている教育の在り方など、たくさん学べました。私が在籍している群馬県では、ハード面の整備は順調に進められています。ただ結局は教員が授業や校務で使っていかなければ「宝の持ち腐れ」だと思っています。多くの教員がこのようなセミナーに参加していくことが大事だと思っている。
- ・学校現場の不安の解消を図り、ともにワクワク感を持ってGIGAスクールを実現できるよう尽力していきたい。

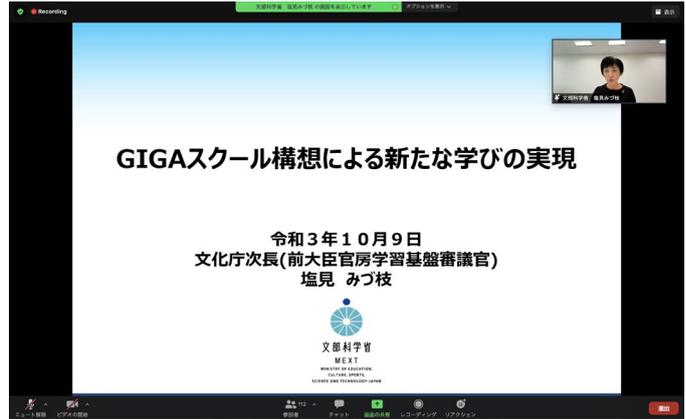
アイデアや工夫したこと

- ・前大臣官房学習基盤審議官で現文化庁次長の塩見みづ枝氏を講演講師及びコメンテーターとしたことで、参加者が「GIGAスクール」の価値や必要性、文部科学省などの諸施策、全国各地の動向などを直接学んで、「実現」のための環境や条件、今後の方向性などについて共通理解することができた。
- ・ICT活用教育が進んでいる秋田県八峰町と、学校数や児童生徒数が秋田県で一番多い秋田市の状況を対比させて学ぶことができたので、参加者は目指す方向と近々の課題を明確につかむことができた。
- ・司会進行の林良雄がICT活用教育の専門家として、シンポジウム冒頭で全国及び秋田県の現状や課題に対する客観的な分析及び考察を示したので、参加者全員が論点を明確に確認できた。

<写真・図など>



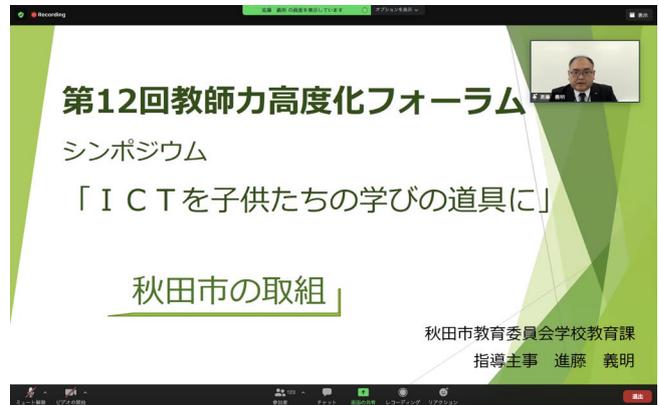
講演講師及びコメンテーター：塩見みづ枝



シンポジスト：秋田県八峰町教育委員会前教育長 千葉良一



シンポジスト：秋田市教育委員会学校教育課 進藤義明



シンポジウムにおける討論（左下は司会進行の林良雄）

秋田大学教職大学院
全ての子供たちに開かれた「GIGAスクール」の実現—ICTを「学び」の道具に—

【NITS】秋田大学教職大学院コラボ研修
第12回あきたの教師力高度化フォーラム

秋田大学教職大学院は、情報通信技術（ICT）を活用する「GIGAスクール」が、全ての生徒に開かれたものになることを強く願っています。そして、これまで培ってきた「秋田の探究授業」/「ICT活用教育」が、全ての教育現場において、子供たちのために「ベスト・プラクティス」となる良質な学習環境として定着することを願っています。本フォーラムは、各参加者自身の経験や学びを共有し、多様な視点から学びの環境を構築することを目指し、参加者のみならず、全国から多数の先生に御参加いただくことを願っています。

基調講演は、「GIGAスクール」の「実現」を推進している文部科学省大臣官房学習基盤審議官 塩見みづ枝先生から、参加者が「GIGAスクール」の理解の基盤、文部科学省の支援策、各参加者の学びなどを基盤として、「実現」のための環境や条件、今後の方向性などを確認していきます。

①シンポジウムは、教育現場の取り組みや課題などを基盤とし、シンポジストとコメンテーター（講師）が、参加者の基盤、実践に基づいて、学校現場における取り組み、教員研修の内容及び方法、学校現場への支援策、障りやすい課題上の問題点などを「GIGAスクール」の「実現」のために確認します。そして、全ての参加者が開かれた「GIGAスクール」の目指すべき良質性を参加者全員で形成します。

日時 令和3年10月9日（土）13:00～16:15
会場 秋田大学60周年記念ホール（教育文化学部3号館145教室）
対象 会場参加：シンポジスト及び本学関係者
Zoom参加：全国の教職員、研究者、教育委員会関係者、教員志望学生、教職大学院生など

日程 13:00 開会行事 挨拶 教育文化学部学部長 佐藤 修司
13:15 基調講演 講師 文部科学省大臣官房 学習基盤審議官 塩見 みづ枝
演 題 「GIGAスクール構想による新たな学びの実現」
（講話紹介）秋田大学教職大学院 曹 善 毅
14:45 シンポジウム「ICTを子供たちの学びの道具に」
（シンポジスト）

秋田県八峰町教育委員会 前教育長 千葉 良一
秋田市教育委員会学校教育課 指導主事 進藤 義明

（コメンテーター） 文部科学省大臣官房 学習基盤審議官 塩見 みづ枝
教育文化学部副学部長 林 良 雄
16:05 閉会行事 挨拶 教育文化学部附属教職高度化センター長 藤田 慎

*新型コロナウイルス感染症の状況により、計画を変更する可能性があります。変更がある場合は、本学教職大学院HP (<https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/>) に記載します。

【主催】秋田大学教職大学院
【協賛】秋田大学教育文化学部附属教職高度化センター
【協賛】秋田県教育委員会/秋田県教育委員会
【問い合わせ先】秋田大学教職大学院事務局
〒010-8502 秋田大学教職大学院1F
010-859-2509 E-mail kyosuu@jmu.akita-u.ac.jp
【お問い合わせ先】事務局までご連絡ください。

秋田大学

パンフレット